

2020 年度 研究所事業報告書

研究所名	生存学研究所
------	--------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2019 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうできるだけわかりやすく記述してください。なお、2019 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式 B に記述のうえ提出してください。

◇有限のときに脆弱な身体とともに人は生き、その人たちの社会がある。その記録・記憶を集積し、考え、未来を構想する。その活動を行おうとする時、なすべきことはあまりに多く、個々人の研究の集積ではそれを行えない。だから研究所という組織・場所を作り、より効率的な運営の道を工夫してきた。

◇【「若手」に働いてもらう】今の常勤の教員たちは忙しい。しかし何がなされるべきかはわかる。方法を知り文献や人を知っている。そして客員研究員は 100 人を超えた。それらの人の知恵と技術を用い、そしてつなぎ、大学院生、所謂(とは年齢的には若くない人たちもたくさんいるからだ)若手研究者が研究する環境を提供し具体的に指導してきた。MLをたんに事務連絡のためだけでなく使う。これまでに研究所全体の ML に配信されたメールの累計は 22000 通。多い日には 10 通ほどが行き交う。研究所の資産ともなる部分には院生他への人件費を支出している。作業をする院生他と所長・所属教員・専門研究員との間のメールは1年で約 4000 通。その作業の多くがキャンパスに来る必要なく十分に可能であることへの理解を求め続けている。

◇【現在を記録しそのまま集積していく】その日々の活動を論文にするまで待つのではなく、その日その日にサイトにあげる。シンポジウムの記録をすぐに文字にし、やはり公開する。その仕事自体がアーカイブの仕事でもある。COVID-19 についての報道や言論を集めることもした。それはその時々の実用のためということもあるが、手立てを講じなければ何もかもがすぐに忘れられてしまうのだから、それ自体が現在をアーカイブしていく営みでもある。国(科学技術振興機構)の大きな資金はのがしたが、本学からの研究資金は用いることはできた。それも使ってその活動を行なった。

◇【もとの、全体の記録を提供する】記録の全体を、例えばインタビューの全体を、むろん同意を得られた場合、掲載・公開していった。論文でしか証言を知ることができないのでは遅いもったいない。人が亡くなっていく速度に追いつけない。そしてもとの記録から様々な理解も生まれる。そうした材料・資源を集めて提供することを、自覚的・組織的に、行なってきている。

◇【まずアジアの拠点となる】世界的にそうした試みは幾つか始まりつつあるが、アジアにはそうない。その先鞭をつける。例えば SNS 上の情報は古文書の類より時に保存が困難であり、そこに各国の政治・社会状況が加わる。やがてかの地の情勢が改善されるまで、留学生等の手も借りて、かえって現在だから保存しにくい情報を蓄積し、可能で妥当なら、公開する。そうして世界、とくに東アジアでの研究とこれからの社会に貢献する。多言語化は不十分だが、私たちのサイトの 2020 年度のアクセス数は年間約 3000 万。大学が運営する研究機関のサイトとしてはたいへん多くの人たちに利用してもらっている。

◇【身体がそこになくてもよいこと、あった方がよいこと、双方をご都合主義的でなく実現していく】COVID-19 流行のもとで手話を含む多くの言語を用いた国際的なオンラインの企画を幾つも行った。それは、そこで報告され議論されることとともに、そのままその方法を開発し、皆に示すことでもあった。手話映像や字幕付のウェビナー開催には幾多の困難もあったが、その原型を作ることができた。そのノウハウを利用し、より発展させた本研究所の企画や関係学会の大会が 2021 年度にもなされる。こうしてその場に身体が不要であることはたしかにある。しかしそれがかかるべき手間を省くためになされてならないし、緊急対応だからとなされるべき対応が後回しにされてはならない。私たちは、具体的に、本学のキャンパス、建物から、足元のアクセシビリティの点検と改善から始め、COVID-19 後海外からを含むの人たちを迎えるための近辺の宿の点検等も行なってきた。学内の各所に働きかけ、地域の営利・非営利組織に働きかけてきている。むろんそれは本研究所だけのことだけではない。ただ、このよあしは別にその「核」がないものごとは前進しない。本研究はその「当座の」核の役を引き受けようとしている。

◇【場を、節約した上で、保持する】他に収蔵されているものはそこに委ねる、ここでは集めない、などできるだけ効率化ははかっている。しかし、研究所にしか集まらないものは多く、その割合はむしろ増えている。工夫はしている、それでも手狭になりつつあるなかで、この年度は、創思館の貸与されている3つのうち1部屋を新たに資料収蔵専用の部屋とした。

拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2021年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

- ①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
研究所長	立岩真也	先端総合学術研究科	教授	
研究所副所長	大谷いつみ	産業社会学部	教授	
運営委員	小川さやか	先端総合学術研究科	教授	
	川端 美季	衣笠総合研究機構	准教授	
	岸政彦	先端総合学術研究科	教授	
	栗原彬	衣笠総合研究機構	研究顧問	
	小泉義之	先端総合学術研究科	特任教授	
	後藤基行	先端総合学術研究科	講師	
	桜井政成	政策科学部	教授	
	サトウタツヤ	総合心理学部	教授	
	鎮目真人	産業社会学部	教授	
	千葉雅也	先端総合学術研究科	教授	
	富永京子	産業社会学部	准教授	
	長瀬修	衣笠総合研究機構	特別招聘研究教授	
	中村正	産業社会学部	教授	
	西成彦	先端総合学術研究科	特任教授	
	林達雄	衣笠総合研究機構	研究顧問	
	松尾匡	経済学部	教授	
	松原洋子	先端総合学術研究科	教授	
	美馬達哉	先端総合学術研究科	教授	
	村本邦子	人間科学研究科	教授	
	望月茂徳	映像学部	准教授	
安田裕子	総合心理学部	准教授		
やまだようこ	OIC 総合研究機構	上席研究員		
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	福間良明	産業社会学部	教授	
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	坂井めぐみ	衣笠総合研究機構	専門研究員
		橋口昌治	衣笠総合研究機構	専門研究員
		桐原尚之	先端総合学術研究科	初任研究員
		芝田純也	衣笠総合研究機構	専門研究員
		シン・ジュヒョン	先端総合学術研究科	初任研究員
	② リサーチアシスタント			
	③ 大学院生	坂野久美	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		小井戸恵子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程

		YooJin-Kyung	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		高木美歩	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		増田洋介	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		植木是	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		栗山治	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		岸田典子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		駒澤真由美	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		権藤真由美	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		酒井美和	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		牧野恵子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		高雅郁	先端学術総合研究科	博士課程後期課程
		欧陽珊珊	先端学術総合研究科	博士課程後期課程
		北島加奈子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		ユ・ジンギョン	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		栗川治	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		焦岩	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		④ 日本学術振興会特別 研究員 (PD・RPD)		
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)		飯田奈美子	先端総合学術研究科	授業担当講師
		藤原信行	先端総合学術研究科	授業担当講師
		北村健太郎	先端総合学術研究科	授業担当講師
		酒井春奈	障害学生支援室	支援コーディネーター
		田邊健太郎	立命館大学先端総合学術研究科	授業担当講師
客員協力研究員		青木慎太郎	大阪府立大学 都研究プラザ	特別研究員
		安部彰	三重県立看護大学看護学部	准教授
		有田啓子	大阪府立守口支援学校	教諭
		有馬斉	横浜市立大学都市社会文化研究 科	准教授
		有吉玲子	-	-
		AngelinaYanyanChin	PomonaCollege	准教授
		Anne-LiseMithout	UniversitéParis-Diderot	准教授
		飯野由里子	東京大学大学院教育学研究科バリアフリ ー教育開発研究センター	特任助教
		石岡亜希子	早稲田大学自動車・部品産業研究所	招聘研究員
		一宮茂子	-	-
		井上武史	特定非営利活動法人メインスト リーム協会	スタッフ
		打浪文子	淑徳大学短期大学部こども学科	准教授
		浦田悠	大阪大学全学教育推進機構教育 学習支援部	特任講師
		大久保豪	株式会社 BMS 横浜	代表取締役
	太田啓子	阪奈中央看護専門学校	非常勤講師	

	大貫菜穂	京都造形芸術大学	非常勤講師
	大野光明	滋賀県立大学人間文化学部	准教授
	岡本晃明	京都新聞社	編集委員
	尾上浩二	特定非営利活動法人 DPI 日本会議	副議長
	勝井久代	ヘルシンキ大学社会科学部障害学	准教授
	葛城貞三	特定非営利活動法人 ALS しがネット	理事長
	加藤有希子	埼玉大学基盤教育研究センター	准教授
	角崎洋平	日本福祉大学社会福祉学部	准教授
	河合翔	-	-
	河口尚子	名古屋市立大学	非常勤講師
	川口有美子	(有)ケアサポートモモ	代表取締役
	川田薫	株式会社サーベイリサーチセンター	職員
	河野さつき	ゲルフ大学社会人類学部	教授
	金政玉	イデア・フロント株式会社	コンサルタント
	金城美幸	立命館大学総合心理学部	非常勤講師
	郭貞蘭	韓国江南大学特殊リハビリ研究所	研究員
	窪田好恵	京都看護大学	教授
	後藤悠里	福山市立大学都市経営学部英語	英語講師
	小林勇人	日本福祉大学社会福祉学部	准教授
	栄セツコ	桃山学院大学	教授
	榊原賢二郎	東京大学大学院	助教
	櫻井悟史	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科	准教授
	笹谷絵里	花園大学社会福祉学部児童福祉学科	専任講師
	貞岡美伸	京都光華女子大学健康科学部看護学科	教授
	佐藤量	立命館大学	非常勤講師
	篠木涼	稲盛財団学術部	職員
	篠原眞紀子	追手門学院大学研究・社会連携課学院志研究室	職員
	JihanKikhia	コモコンサルティングサービス (トロント、オンタリオ州)	コンサルタント
	鍾宜錚	大谷大学真宗総合研究所東京分室	日本学術振興会特別研究員 (PD)
	鄭喜慶	光州大学社会福祉学部	准教授
	鈴木羽留香	東京工業大学	特別研究員
	孫美幸	文教大学国際学部国際理解学科	准教授
	高阪悌雄	名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科	教授
	高橋慎一	非営利活動法人日本自立生活センター	職員
	高橋涼子	金沢大学人間社会研究域人間科学系	教授

	田中真美	はしづめ内科	非常勤ソーシャルワーカー
	谷村ひとみ	社会福祉法人不動園障がい者支援施設天ヶ瀬寮	看護師
	天島大輔	日本学術振興会特別研究員 (PD)	中央大学文学部
	利光恵子	女性のための街かど相談室「ここ・からサロン」	共同代表
	土橋圭子	大阪大学大学院連合小児発達学研究所・福井校	研究生
	土肥いつき	京都府立城陽高校	教諭
	仲尾謙二	-	-
	中尾麻伊香	長崎大学原爆後障害医療研究所	助教
	中倉智徳	千葉商科大学人間社会学部	専任講師
	長崎潔	JA 厚生連松阪中央総合病院	看護師
	永田貴聖	宮城学院女子大学	准教授
	永田美江子	平安女学院大学	准教授
	中根成寿	京都府立大学公共政策学部福祉社会学科	准教授
	中村江里	日本学術振興会特別研究員 (PD)	慶応義塾大学
	中村雅也	東京大学大学院先端科学技術研究センター	日本学術振興会特別研究員 (PD)
	永山博美	独立行政法人労働者健康安全機構神戸労災病院	看護師
	新山智基	神戸国際大学ブルーリ潰瘍問題支援プロジェクト (ProjectSCOBUI)	幹事
	西沢いづみ	京都中央看護保健大学校	講師
	能勢桂介	長野保健医療大学	非常勤講師
	萩原三義	相生鍼灸	院長
	萩原浩史	社会福祉法人加島友愛会	支援課長
	長谷川 唯	-	-
	原昌平	関西看護医療大学	非常勤講師
	番匠健一	関西大学	非常勤講師
	樋澤吉彦	名古屋市立大学大学院人間文化研究科	准教授
	平岡久仁子	帝京平成大学現代ライフ学部人間文化学科	非常勤講師
	廣野俊輔	同志社大学社会学部社会福祉学科	准教授
	藤岡毅	-	弁護士
	藤原良太	-	-
	許叔民	韓国光州福祉財団政策研究チーム	-
	細谷幸子	国際医療福祉大学成田看護学部	准教授
	堀智久	名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科	准教授
	AstghikHovhannisian	京都国際日本文化研究センター	客員研究員
	牧昌子	京都府国民健康保険審査会	-
	増田英明	一般財団法人日本ALS協会	副会長

	松枝亜希子	-	-
	松波めぐみ	大阪市立大学	非常勤講師
	松本理沙	金沢大学先端科学・社会共創推進機構	博士研究員
	三島亜紀子	同志社大学	非常勤講師
	密田逸郎	立命館大学	産業社会学部非常勤講師
	村上潔	神戸市外国語大学	非常勤講師
	安田真之	甲子園短期大学	非常勤講師
	山田裕一	発達協働センターよりみち	センター長
	山本由美子	大阪府立大学人間社会システム科学研究科	講師
	梁陽日	同志社大学	嘱託講師
	劉基勳	ソウル大学病院	研修医
	横田陽子	-	-
	吉田幸恵	群馬パース大学	講師
	頼尊恒信	NPO 法人 CIL だんない	事務局長
その他の学外者	土屋葉	愛知大学	教授
	山下幸子	淑徳大学	教授
	張万洪	国立武漢大学法学部	教授
	張恒豪	国立台北大学社会学部	教授
	呉達明	香港大学 School of Professional and Continuing Education	准教授
	安孝淑	先端総合学術研究科修了生	2018年度学位取得
研究所・センター構成員 計 155 名 (うち学内の若手研究者 計 23 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2021年3月31日時点) また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	立岩真也	『介助の仕事——街で暮らす／を支える』	単著	2021年3月10日	ちくま新書, 筑摩書房		
2	立岩真也	「とくだんか変わったことはなにも」		2021年2月28日	榎木野衣・京都市京セラ美術館編『平成美術:うたかたと瓦礫 1989-2019』	世界思想社	pp.171-176
3	小川さやか	現代アフリカ文化の今—15の視点から、その現在地を探る(執筆項目「いまだ遭遇していない者を織り込んだ「コミュニティ」—香港のタンザニア人の事例から—)	共著	2020年5月	青幻舎	ウスビ・サコ、清水貴夫編	pp.182-191
4	小川さやか	思想としての「新型コロナウイルス渦」(執筆項目「資本主義経済のなかに迂回路をひらく」)	共著	2020年5月	河出書房新社	大澤真幸、中野徹、長沼毅、宮沢孝幸ほか18人	pp.108-118
5	小川さやか	[教科書]文化人類学のエッセンス—世界をみる／変え	分担執筆	2021年1月	有斐閣アルマ	春日直樹・竹沢尚一朗編	pp.239-257

		る(分担項目「第14章 エスノグラフィ」)					
6	小川さやか	都市科学事典	分担執筆	2021年3月	丸善出版	横浜国立大学都市科学部編	pp.876-877
7	桜井政成	コミュニティの幸福論: 助け合うことの社会学	単著	2020年10月	明石書店	桜井政成	
8	桜井政成	Social Economy in Asia: Realities and Perspectives	共著	2021年2月	Lexington Books	BIPASHA BARUAH; SIQI CHEN; GI BIN HONG; XIAOSHUO HOU; DENISON AYASOORIA; EUIYOUNG KIM; TAEKYOON KIM; EUN SUN LEE; MARGUERITE MENDELL; IROKI MIURA; <u>ASANARI SAKURAI</u> ; HYUK-SANG SOHN AND ILCHEONG YI	
9	サトウタツヤ	教育を心理学的に考えるとどうなるか? 育つ側・学ぶ側について理解して主体的に意味づけて生きる方法を身につける	単著	2020年8月	ナカニシヤ出版竹尾和子, 井藤元(編)『ワークで学ぶ発達と教育の心理学』, ナカニシヤ出版	サトウタツヤ	pp.3-16
10	鎮目真人	社会福祉士養成 基本テキスト 第3巻	分担執筆	2020年4月	日総研出版	行貞伸二監修	pp.18-31
11	鎮目真人	よくわかる福祉社会学	分担執筆	2020年10月	ミネルヴァ書房	武川正吾、森川美絵、井口高志、菊地英明編著	
12	鎮目真人	年金—どうする老後の貧困	分担執筆	2020年10月	ミネルヴァ書房『どうする日本の福祉政策』	埋橋孝文編	
13	鎮目真人	年金制度の不人気改革はなぜ実現したのか—1980～2016年改革のプロセス分析—	単著	2021年1月	ミネルヴァ書房		
14	千葉雅也	一等星の詩 最果タヒ展オフィシャルブック	分担執筆	2020年8月	sou nice publishing		pp.34-39: 詩とは何か
15	千葉雅也	世界哲学史8	分担執筆	2020年8月	ちくま新書	伊藤邦武ほか編	pp.73-100: 第三章 ポストモダン、あるいはポスト構造主義の論理と倫理
16	千葉雅也	ツイッター哲学—別のしかたで	単著	2020年11月	河出文庫		
17	千葉雅也	フーコー研究	分担執筆	2021年3月		小泉義之ほか編	pp.478-482: 生き様のパレーシア
18	富永京子	Protest journey: the practices of constructing activist identity to choose and define the right type of activism	単著	2020年12月	Interface 12(2)		pp.19-41
19	長瀬修	『アジアの障害者の法的能力と後見制度 障害者権利条約から問い直す』「台湾における障害者の法的能力」	単著	2021年3月10日	生活書院	小林昌之編	pp.121-148
20	中村正	マイクロアグレッション—人種、ジェンダー、性的指向: マイノリティに向けられる無意識の差別	共訳	2020年12月	明石書店	朴希沙、金友子ほか	

21	松尾匡	教養のための経済学超ブックガイド	共著	2020年8月	亜紀書房	共編著者:飯田泰之、井上智洋その他共著者:朴勝俊、小田巻友子ほか	
22	松尾匡	定点観測 新型コロナウイルスと私たちの社会 2020年前半(論創ノンフィクション005)	共著	2020年9月	論創社	斎藤環、雨宮処凛ほか	
23	松尾匡	コロナ後の世界——いま、この地点から考える	共著	2020年9月	筑摩書房	宮台真司、中島岳志ほか	
24	松尾匡	左翼の逆襲—社会破壊に屈しないための経済学	単著	2020年11月	講談社		
25	美馬達哉	『感染症社会 アフターコロナの生政治』	単著	2020年7月	人文書院		
26	村本 邦子	実践離婚事案解決マニュアル 当事者ケアと子どもの権利・利益実現に向けた弁護士のサポートのあり方(第1部1章Ⅱ 女性当事者に対するアプローチ、2章Ⅲ 高葛藤事案における子どもの権利と利益の実現、第2部1章Ⅲ 主として離婚原因の被害者の立場にある当事者への対応)	分担執筆	2020年6月	日本加除出版	二宮周平(編集代表)	pp.31-47 pp.139-154 pp.277-282
27	村本 邦子	モチないけど生きてます: 苦悩する男たちの当事者研究(「解説 語り出した男たちに乾杯」)	分担執筆	2020年9月	青弓社	ぼくらの非モチ研究会(編著)	

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	立岩真也	「無駄に引かず無益に悩まないことができる」	単著	2020年4月1日	社会福祉研究 137		pp.31-37	
2	立岩真也	「「自己犠牲」や「指針」で、命をめぐる医療現場の困難は減らない——だいじょうぶ、あまっている・2」	単著	2020年4月21日	現代ビジネス			
3	立岩真也	「障害者・と・労働 メモ」「公共論史」講義のための資料	単著	2020年4月24日				
4	立岩真也	「話してもらおう——何がおもしろうて読むか書くか 第12回」	単著	2020年4月25日	『ちいさい・おおきい・よわい・つよい』		p.127	
5	立岩真也	「新型コロナの医療現場に、差別なく、敬意をもって人に来てもらおう——だいじょうぶ、あまっている・3」	単著	2020年5月2日	現代ビジネス			
6	立岩真也	「もの・薬——新書2のための連載・14」	単著	2020年11月16日	eS037			
7	立岩真也	「制度を使う・2——新書のための連載・6」	単著	2020年6月15日	eS014			
8	立岩真也	「優生思想?・6——新書2のための連載・06」	単著	2020年9月7日	eS029			
9	小川さやか	書評マイク・モラスキー『呑めば、都』(コロナ時代を生きるための60冊)	単著	2020年8月	現代思想 48(11)		pp.286-289	
10	小川さやか	<対談>調査する人生(1)——すべてを感じたい(前編)	共著	2020年8月	図書(岩波書店) 861	岸政彦・小川さやか		
11	小川さやか	いま再読したい「私を変えた一冊」	単著	2020年9月	群像群像 75(10)		p.161	
12	小川さやか	新刊この一冊 高須正和・高口康太編『プロトタ』	単著	2020年10月	中央公論社中央公論(2020年10月)	小川さやか	pp.212-213	

		イブシティー深堀と世界的イノベーション』						
13	小川さやか	特集コロナの秋に読む オルタナティブな世界を 構想する—アナキズムか ら現在を見つめる 10 冊	単著	2020 年 10 月	朝日新聞社 Journalism 2020 年(10)		pp.16-21	
14	小川さやか	書評 茂木健一郎『クオ リアと人工意識』	単著	2020 年 10 月	第三文明 (11)	小川さやか	p.92	
15	小川さやか	句選ジャーナル イグ・ ノーベル賞 日本人受賞 を問う理由	単著	2020 年 10 月				
16	小川さやか	書評 斎藤環・與那覇潤 『心を病んだらいけない の？—うつ病社会の処方 箋』	単著	2020 年 11 月	第三文明社第三文明 (12)		p.86	
17	小川さやか	書評 新橋は東京の最後 の秘境か『新橋パラダイ ス』村岡俊也	単著	2020 年 11 月	文藝春秋週刊文春 11(19)		p.102	
18	小川さやか	ひとときエッセイ「そし て旅へ」あの家でみた景 色	単著	2020 年 11 月	株式会社ウェッジひととき 20(20)		p.11	
19	小川さやか	文献紹介デイヴィッド・ グレーバー著『ブルシッ ト・ジョブ—クソどうで もいい仕事の理論』	単著	2020 年 12 月	ブックファースト名著百選202 0 (2020 年)		p.11	
20	小川さやか	書評 星野智幸著『たま され屋さん』	単著	2021 年 1 月	群像			
21	川端美季	清潔の指標——習慣と国民 性が結びつけられるとき	単著	2020 年 5 月	青土社、「現代思想」第 48 卷 第 7 号		pp.170-178	
22	川端美季	書評:若林悠『日本気象行政 史の研究——天気予報にお ける官僚制と社会』東京大 学出版会、	単著	2020 年 5 月	立命館大学生存学研究所、 「生存学研究」第 4 号			
23	川端美季	2019 年 生物学史分科会と私	単著	2020 年 7 月	科学史学会生物学史分科 会、「生物学史研究」第 100 号			
24	サトウタツ ヤ	[心理学史 諸国探訪] デンマーク	単著	2020 年 4 月	心理学ワールド (89)	サトウタツヤ	p.29	
25	サトウタツ ヤ	Situational experience around the world: A replication and extension in 62 countries	共著	2020 年 5 月	Journal of Personality	Daniel I. Lee Gwendolyn Gardiner Erica Baranski Members of the <u>International Situations Project</u> David C. Funder		
26	サトウタツ ヤ	新型コロナウイルスの拡散と それに関するリスク:オンライ ン調査の結果 対人援助学 &心理学の縦横無尽 (28)	共著	2020 年 6 月	対人援助学マガジン (41)	サトウタツヤ	pp.93-104	
27	サトウタツ ヤ	人々に共通する心理を知っ た上でマーケティングでは 個別性をすくい取る	単著	2020 年 7 月	宣伝会議宣伝会議 (947)	サトウタツヤ	pp.38-39	
28	サトウタツ ヤ	心理学史諸国探訪 ブラジ ル	単著	2020 年 7 月	日本心理学会心理学ワールド (90)	サトウタツヤ	pp.29-29	
29	サトウタツ ヤ	大学生と接する全ての方に 読んでほしい 1 冊『大学生の ストレスマネジメント — 自 助の力と援助の力	単著	2020 年 7 月	有斐閣書齋の窓 (670)	サトウタツヤ	pp.41-45	
30	サトウタツ ヤ	International ptimism: Correlates and Consequences of Dispositional Optimism Across 61 Countries	共著	2020 年 8 月	Wiley Periodicals, Inc.,Journal of Personality 88	Erica Baranski, Kate Sweeny, Gwendolyn Gardiner, Members of the International		

						Situations Project, David C. Funder		
31	サトウタツヤ	消費者の「願い」からヒントを得る	単著	2020年9月	宣伝会議宣伝会議 (948)		pp.159-159	
32	サトウタツヤ	心理学と統計—歴史的な検討を通じて未来を展望する	単著	2020年9月	青土社現代思想 48(12)		pp.154-163	
33	サトウタツヤ	キャリアと文化の心理学(1) 教育・発達心理学とキャリア教育の接合	共著	2020年9月	対人援助学マガジン (42)	土元哲平・サトウタツヤ	pp.288-302	
34	サトウタツヤ	行為とその文脈を知る TEM という方法	単著	2020年10月	株式会社宣伝会議宣伝会議 (949)	サトウタツヤ	p.215	
35	サトウタツヤ	心理学史諸国探訪 ニュージーランド	単著	2020年10月	日本心理学会心理学ワールド (91)	サトウタツヤ	p.29	
36	サトウタツヤ	人によって異なる、「元の生活」をどう理解するか?	単著	2020年11月	株式会社宣伝会議宣伝会議 (950)	サトウタツヤ	p.183	
37	サトウタツヤ	チームで探究活動を行う生徒から見た総合学習の促進要因と課題(1) —京都府立鳥羽高校のイノベーション探究 I の実践から—	共著	2020年12月	京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 研究紀要 59	乾明紀・田中誠樹・竹林祥子・大泉幸寛・宮崎雄史郎・ミューリニコラス・久保友美・杉岡秀紀・高野拓樹・サトウタツヤ	pp.123-141	
38	サトウタツヤ	Happiness around the World A combined etic-emic approach across 63 countries.	共著	2020年12月	PLOS ONE 15(12)	Gardiner G, Lee D, Baranski E, Funder D, Members of the International Situations project		
39	サトウタツヤ	看護専門学校に所属する看護教員の力量形成の構造—中堅期にある教員の語りから—	共著	2020年12月	看護教育研究会看護教育研究学会誌 12	田中千尋・サトウタツヤ	pp.13-24	
40	サトウタツヤ	ビッグデータより「ナノ」データ	単著	2020年12月	株式会社宣伝会議宣伝会議 (951)	サトウタツヤ	p.183	
41	サトウタツヤ	TEM(複線径路等至性モデリング)ふたたび	単著	2021年1月	株式会社宣伝会議宣伝会議 (952)	サトウタツヤ	p.159	
42	サトウタツヤ	心理学史諸国探訪 アルゼンチン	単著	2021年1月	日本心理学会心理学ワールド (92)	サトウタツヤ	p.29	
43	サトウタツヤ	高大連携型教育を用いた探究学習に関する実践的研究—探究学習に対する生徒のイメージやスキルに影響を及ぼす要因—	共著	2021年2月	京都大学地域連携教育研究 6	高野拓樹・松原久・糟野護司・乾明紀・久保友美・杉岡秀紀・サトウタツヤ	pp.33-49	
44	サトウタツヤ	三鼎思考法でMarket「ing」を捉えなおす	単著	2021年2月	株式会社宣伝会議宣伝会議 (953)	サトウタツヤ	p.175	
45	鎮目真人	A corporate-centred conservative welfare regime: three-layered protection in Japan.	共著	2021年1月	Routledge Journal of Asian Public Policy 14(1)	Masato Shizume, Masatoshi Kato & Ryozo Matsuda	pp.110-133	
46	千葉雅也	思索のノート 日常からの探究	単著	2020年4月	信濃毎日新聞		連載:全12回	
47	千葉雅也	[小説]マジックミラー	単著	2020年4月	書肆侃侃房ことばと (1)		pp.7-18	
48	千葉雅也	[インタビュー]千葉雅也が語る、自己破壊としての勉強と痛みとの共存「生きることは、プリミティブな刺激を快楽に変換すること」	単著	2020年4月	Real Sound			
49	千葉雅也	本当のシンプルとは? 7人の専門家たちによる思考レッスン	分担執筆	2020年5月	VOGUE CHANGE			
50	千葉雅也	仕事の脱構築	単著	2020年6月	Omni-management 29(6)		pp.8-13	

51	千葉雅也	人間はそもそも不要不急を本質にしている動物	単著	2020年6月	BNL (Business Network Lab)			
52	千葉雅也	[インタビュー]哲学者が考えていること(5) ネットは哲学 千葉雅也が見た「接続過剰」社会	単著	2020年6月	日本経済新聞			
53	千葉雅也	しもつけ随想	単著	2020年7月	下野新聞			連載:全5回
54	千葉雅也	非常時の日記	単著	2020年7月	文學界 74(7)			pp.173-184
55	千葉雅也	制作と生活——坂口恭平『自分の薬をつくる』書評	単著	2020年7月	晶文社 note			
56	千葉雅也	[対談]新自由主義に奪われた「魂と自律性」は、都市の余白に眠っている	共著	2020年8月	BRUTUS 922	白井聡		pp.70-73
57	千葉雅也	[インタビュー]大衆的だった安倍政権 千葉雅也が説く「多数派の救済」	単著	2020年9月	朝日新聞			
58	千葉雅也	[対談]浅原ナオト『#塚森裕太がログアウトしたら』刊行記念特別対談 塚森という名の「出木杉くん」を救うためには	共著	2020年10月	小説幻冬 5(11)	浅原ナオト		pp.182-193
59	千葉雅也	ポリモーダルな即興演奏	単著	2020年11月	文學界 74(11)			pp.122-124
60	千葉雅也	[インタビュー]自己への配慮としての筋トレ	単著	2020年11月	京都服飾文化研究財団 Fashion Talks... (12)			pp.16-18
61	千葉雅也	絵画を見ることは、描くことの追体験である	単著	2020年12月	美術手帖 72(1085)			pp.70-73
62	千葉雅也	バク転する阿弥陀仏	単著	2020年12月	añjali (40)			pp.4-7
63	千葉雅也	ダイバーシティについて——否定性の複数性の肯定	単著	2020年12月	i-D			
64	千葉雅也	不透明な世界を生き抜くための、武器としての「哲学」	単著	2020年12月	BRUTUS 930			pp.54-55
65	千葉雅也	[対談]自分のダンスを取りもどすために	共著	2020年12月	文學界 74(12)	小林直己		pp.82-94
66	千葉雅也	八月十二日～八月十八日(創人52人の「2020コロナ禍」日記リレー)	分担執筆	2021年2月	新潮 108(3)			pp.61-64
67	千葉雅也	マーサ・ナカムラの一寸法師	単著	2021年2月	現代詩手帖 64(2)			pp.80-81
68	長瀬 修	「新型コロナウイルス感染症と障害者の権利」	単著	2020年6月25日	『福祉労働』第167号			pp.106-112
69	長瀬 修	「東アジアにおける新型コロナウイルス感染症と障害者—障害学国際セミナー2020」	単著	2020年9月25日	『福祉労働』第168号			pp.86-89
70	長瀬 修	「高齢と障害の交差性—コロナ、エイジズム、高齢者の権利条約」	単著	2020年12月25日	『福祉労働』第169号			pp.70-71
71	長瀬 修	「障害者権利条約締結国会議と障害者権利委員会の動向—新型コロナウイルス感染症の影響」	単著	2021年3月25日	『福祉労働』第170号			pp.82-83
72	中村正	男たちの「暴力神話」と脱暴力臨床論—家庭内暴力の加害者心理の理解をもとにして—	単著	2020年4月	子どもの虐待とネグレクト 22(1)			pp.50-56
73	中村正	地域との協働をかたちにする支援者支援セミナーの経験	単著	2020年4月	対人援助学研究 10(6)			pp.62-73
74	中村正	臨床社会学の方法(29)リアリティとは何か—「ひとりだけ、ひとりじゃない」世界から	単著	2020年6月	対人援助学会対人援助学マガジン 11(1)			pp.23-32

		考える						
75	中村正	臨床社会学の方法(30)自由に生きるための知	単著	2020年9月	対人援助学会対人援助学マガジン 11(2)			pp.21-32
76	中村正	臨床社会学の方法(31)男らしさを「聴く」	単著	2020年12月	対人援助学会対人援助学マガジン 11(3)			pp.21-30
77	中村正	臨床社会学の方法(32)怒りが暴力を振るわせるのかー感情を生起させる「憎悪・嫌悪」の構図とアンガーマネジメントの乗りこえー	単著	2021年3月	対人援助学会対人援助学マガジン 11(4)			pp.26-35
78	西成彦	死者は生者のなかに①歌の発生・再生・転生	単著	2020年6月	みすず書房みすず (693)			pp.2-17
79	西成彦	「海洋文学」か「海の文学」か——東アジア現代文学における女性作家の挑戦——	単著	2020年6月	東アジアと同時代日本語文学フォーラム×高麗大学校GLOBAL日本研究院跨境 10			pp.29-44
80	西成彦	死者は生者のなかに②彼女たちに無用の苦しみを与えてはならない	単著	2020年8月	みすず書房みすず (695)			pp.44-59
81	西成彦	死者は生者のなかに③十人の敵でも与えられないほどの害	単著	2020年10月	みすず書房みすず (697)			pp.44-59
82	西成彦	死者は生者のなかに④抵抗するために生き、生きるために抵抗する	単著	2020年12月	みすず書房みすず (699)			pp.46-57
83	松尾匡	反緊縮経済政策理論の体制変革展望	単著	2020年4月	桜井書店季刊経済理論 57(1)			pp.19-30
84	松尾匡	下方からの景気反転の理解に向けて —幾何ハロッド・置塩型投資関数による確率過程モデルの一試案—	共著	2020年11月	立命館経済学 69(4)	西郷甲矢人		pp.96-105
85	美馬達哉	Intraoperative electrophysiological mapping of medial frontal motor areas and functional outcomes.	共著	2020年	World Neurosurgery	Shibata S, Yamao Y, Kunieda T, Inano R, Nakae T, Nishida S, Inada T, Takahashi Y, Kikuchi T, Arakawa Y, Yoshida K, Matsumoto R, Ikeda A, Mima T, *Miyamoto S.		
86	美馬達哉	Cerebellar transcranial alternating current stimulation modulates human gait rhythm.	共著	2020年	Neurosci Res.	*Koganemaru S, Mikami Y, Matsushashi M, Truong DQ, Bikson M, Kansaku K, Mima T.		
87	美馬達哉	Gait-synchronized oscillatory brain stimulation modulates common neural drives to ankle muscles in patients after stroke: a pilot study.	共著	2020年	Neurosci Res.	*Kitatani R, Koganemaru S, Maeda A, Mikami Y, Matsushashi M, Mima T, Yamada S.		
88	美馬達哉	Transcranial Direct Current Stimulation for a Patient with Locked-in Syndrome.	共著	2020年	Brain Stimul 2020	*Satow T, Komuro T, Yamaguchi T, Tanabe N, Mima T		pp.375-377

89	美馬達哉	Effects of bilateral anodal transcranial direct current stimulation over the tongue primary motor cortex on cortical excitability of the tongue and tongue motor functions	共著	2020 年	Brain Stimul 13(1)	*Maezawa H, Vicario CM, Kuo MF, Hirata M, Mima T, Nitsche MA		
90	美馬達哉	Comparison of Phase Synchronization Measures for Identifying Stimulus-Induced Functional Connectivity in Human Magnetoencephalographic and Simulated Data.	共著	2020 年	Frontiers in Neuroscience	Yohisnaga, K., Matsushashi, M., Mima, T., Fukuyama, H., Takahashi, R., *Hanakawa, T. Ikeda, A.		
91	美馬達哉	Smaller muscle mass is associated with increase in EMG–EMG coherence of the leg muscle during unipedal stance in elderly adults.	共著	2020 年	Human Movement Science 71	Nojima I, Suwa Y, Sugiura H, Noguchi T, Tanabe S, Mima T, Watanabe T		
92	美馬達哉	Effect of transcranial static magnetic stimulation on intracortical excitability in the contralateral primary motor cortex.	共著	2020 年	Neuroscience Letters	Shibata S, Watanabe T, Yukawa Y, Minakuchi M, Shimomura R, *Mima T.		
93	美馬達哉	The effects of transcranial static magnetic fields stimulation over the supplementary motor area on anticipatory postural adjustments.	共著	2020 年	Neuroscience Letters	Tsuru D, Watanabe T, Chen X, Kubo N, Sunagawa T, Mima T, *Kirimoto H.		
94	美馬達哉	Intraoperative lectrophysiological mapping of medial frontal motor areas and functional outcomes.	共著	2020 年	World Neurosurgery	Shibata S, Yamao Y, Kunieda T, Inano R, Nakae T, Nishida S, Inada T, Takahashi Y, Kikuchi T, Arakawa Y, Yoshida K, Matsumoto R, Ikeda A, Mima T, *Miyamoto S.		
95	美馬達哉	Cerebellar transcranial alternating current stimulation modulates human gait rhythm.	共著	2020 年	Neurosci Res.	*Koganemaru S, Mikami Y, Matsushashi M, Truong DQ, Bikson M, Kansaku K, Mima T.		
96	美馬達哉	Gait-synchronized oscillatory brain stimulation modulates common neural drives to ankle muscles in	共著	2020 年	Neurosci Res.	*Kitatani R, Koganemaru S, Maeda A, Mikami Y, Matsushashi		

		patients after stroke: a pilot study.				M, Mima T, Yamada S.		
97	美馬達哉	Transcranial Direct Current Stimulation for a Patient with Locked-in Syndrome.	共著	2020年	Brain Stimul 2020	*Satow T, Komuro T, Yamaguchi T, Tanabe N, Mima T		
98	美馬達哉	Effects of bilateral anodal transcranial direct current stimulation over the tongue primary motor cortex on cortical excitability of the tongue and tongue motor functions	共著	2020年	Brain Stimul 13(1)	*Maezawa H, Vicario CM, Kuo MF, Hirata M, Mima T, Nitsche MA		
99	美馬達哉	「戦争／バイオポリティクス／障害」	単著	2020年 4月	福音と世界			
100	美馬達哉	「感染までのディスタンス」	単著	2020年 5月	現代思想 48(7)		pp.53-60	
101	美馬達哉	「新型コロナの生政治—閉じ込めからモニタリング監視へ」	単著	2020年 6月	人間会議 2020年夏号		pp.96-100	
102	村本邦子	多声的で小さな物語を聴くことの意味 — 災禍を生き抜くレジリエンスとコミュニティ	共著	2020年 4月	対人援助学研究 10	村本邦子・団士郎・鶴野祐介・団士郎・斎藤清二・川野健治・澤野美智子	pp.81-101	
103	村本邦子	東日本大震災の被災と復興における コミュニティ・レジリエンスと外部支援 — 証人の観点からのショートストーリー分析—	単著	2020年 4月	対人援助学研究 10	村本邦子	pp.3-18	
104	村本邦子	東日本大震災とレジリエンスを引き出す災害後のコミュニティ支援 — 「物語」をキーワードに—	単著	2020年 4月	対人援助学研究 10	村本邦子	pp.1-2	
105	村本邦子	周辺からの記憶 27: 2017年 岩手・福島	単著	2020年 6月	対人援助学マガジン 11(1)	村本邦子	pp.148-167	
106	村本邦子	周辺からの記憶 28 2018年 むつ・多賀城	単著	2020年 9月	11(2)		pp.144-167	
107	村本邦子	周辺からの記憶 29 2018年 宮古・福島	単著	2020年 12月	対人援助学マガジン 11(3)		pp.141-163	
108	村本邦子	書評 ホロコーストから届く声	単著	2021年 3月	武久出版図書新聞 (3487)		p.3	
109	村本邦子	周辺からの記憶 30 2019年 むつ・多賀城	単著	2021年 3月	11(4)		pp.123-140	
110	村本邦子	原子力災害の記憶構築をめぐって—チェルノブイリと福島のミュージアムの比較検討	共著	2021年 3月	立命館大学国際平和ミュージアム紀要 (22)		pp.131-153	
111	安田裕子	Career Development during the School-to-Work Transition among the Students of Middle-Ranked Universities in Japan	共著	2020年	Journal of Asian Vocational Education and Training 13	Banda, K., Sugimori, S., Sato, T., Yasuda, Y., & Toyoda, Y.	pp.1-25	
112	安田裕子	特集:「いばらきコホート調査」の紹介 「いばらきコホート調査」における倫理的配慮	共著	2020年 6月	日本保健福祉学会誌 26(2)	神崎真実・川本静香・妹尾麻美・中田友貴・肥後克己・孫怡・岡本尚子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子・矢藤優子	pp.17-25	
113	安田裕子	特集:「いばらきコホート調査」の紹介 「いばらきコホー	共著	2020年 6月	日本保健福祉学会誌 26(2)	妹尾麻美・孫怡・肥後克己	pp.5-16	

		ト調査」における調査設計と概要				・神崎真実・ 中田友貴・川 本 静香・岡本尚 子・安田裕子・サト ウタツヤ・鈴木華 子・矢藤優子	
114	安田裕子	第1子妊娠中の女性労働者からみた「働き方戦略」再考	共著	2020年9月	日本女子大学現代女性キャリア研究所現代女性とキャリア(12)	妹尾麻美・三品拓人・安田裕子	pp.51-63
115	安田裕子	対人援助学&心理学の縦横無尽(29) ヤーンの古希を言祝ぐ—日本ならびに立命館大学におけるTEMとヤーンのネットワークの拡大(1) 2008年まで.	共著	2020年12月	対人援助学会対人援助学マガジン(43)	サトウタツヤ・安田裕子・木戸彩恵・土元哲平	pp.84-92
116	安田裕子	国際教育交流が育む学生ピア・サポートの多様化—多文化サービスラーニングの可能性を巡って	共著	2021年3月	立命館大学教育開発推進機構立命館高等教育研究(21)	村山かなえ・北出慶子・遠山千佳・安田裕子・山口洋典	pp.139-158
117	安田裕子	家事・育児に関して妻が担う潜在的活動の内実と過程—妊娠・育児期の女性への聞き取り調査から	共著	2021年3月	立命館大学人間科学研究所立命館人間科学研究(43)	三品拓人・妹尾麻美・安田裕子	pp.1-16

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	立岩真也	新型コロナウイルスの時に『介助する仕事』(仮題)を出す——新書のための連載・1	2020年5月11日		
2	立岩真也	ヘルパーをしてみる・1——新書のための連載・2	2020年5月18日		
3	立岩真也	ヘルパーをしてみる・2——新書のための連載・3	2020年5月25日		
4	立岩真也	ヘルパーをしてみる・3——新書のための連載・4	2020年6月1日		
5	立岩真也	制度を使う・1——新書のための連載・5	2020年6月8日		
6	立岩真也	制度を使う・3——新書のための連載・7	2020年6月22日		
7	立岩真也	組織を使う作る——新書のための連載・8	2020年6月29日		
8	立岩真也	『谷川俊太郎詩集』, 河合文化教育研究所編『2020 わたしが選んだこの一冊——河合文化教育研究所からの推薦図書』	2020年6月	河合塾教育開発研究本部	
9	立岩真也	少し遡る——新書のための連載・9	2020年7月6日		
10	立岩真也	煽情主義も使う	2020年7月10日	『Journalism』2020-7NO. 362	
11	立岩真也	新書のための連載・10	2020年7月13日		
12	立岩真也	無駄に引かず無益に悩まないことができる——新書のための連載・11	2020年7月20日		
13	立岩真也	やれやれ——新書のための連載・12	2020年7月24日		
14	立岩真也	へんな穴に落ちない——新書のための連載・13	2020年7月24日		
15	立岩真也	「んな時だから言う、また言う——新書のための連載・14	2020年8月3日		
16	立岩真也	こんな時だから言う、また言う 収録版——新書のため	2020年8月10日		

		の連載・15			
17	立岩真也	優生思想?・1——新書・2 のための連載・01	2020年8月17日		
18	立岩真也	優生思想?・2——新書・2 のための連載・02	2020年8月24日		
19	立岩真也	優生思想?・3——新書・2 のための連載・03	2020年8月31日		
20	立岩真也	優生思想?・4——新書・2 のための連載・04	2020年9月7日		
21	立岩真也	優生思想?・5——新書2の ための連載・05	2020年9月14日		
22	立岩真也	優生思想?・7——新書2の ための連載・07	2020年9月7日		
23	立岩真也	優生思想?・8——新書2の ための連載・08	2020年9月7日		
24	立岩真也	優生思想?・9——新書2の ための連載・09	2020年9月7日		
25	立岩真也	優生思想?・10——新書2 のための連載・10	2020年9月7日		
26	立岩真也	介助者として働いてみようとい う本の話——何がおもしろ うて読むか書くか 第13回	2020年10月25日	『ちいさい・おおきい・よわい・つよい』 128	
27	立岩真也	また足りない話——新書2 のための連載・11	2020年10月26日		
28	立岩真也	もの:呼吸器——優生思 想?・12——新書2のため の連載・12	2020年11月2日		
29	立岩真也	また足りない話:薬——新書 2のための連載・13	2020年11月9日		
30	大谷いづみ	「忘れられた感染症、ポリオ」 のサバイバーとして聴く(閉 会 挨拶)	2020年5月	オンラインセミナー「新型コロ ナウイルス感染症と生存学」	
31	大谷いづみ	The Covid-19 Crisis and the Experience of Polio Survivors: Life Before and After a Pandemic	2020年7月	East Asia Disability Studies Forum 2020 Webinar on COVID-19 and Persons with Disabilities in East Asia	
32	大谷いづみ	移動・情報/教育・労働のア クセシビリティ——<障害 児・学生>と<障害のある教 員>の経験から	2020年7月	土曜講座代替企画 ウィズコロ ナ/アフターコロナのアクセシ ビリティ	
33	大谷いづみ	<間>の生を聴く、<間> の生を語る——「わたし・た ち」の物語のために	2020年10月	ゲノム問題検討会議、緊急 zoom セミ ナー「いのちを語る:安楽死・尊厳死 言説といのちの学び」	
34	小川 さやか	人はシェアする生き物「そ れでも人は他者と空間をシ ェアする」	2020年12月	第55回住総研シンポジウム	
35	川端美季	「清潔な習慣」と国民性	2020/5/1	立命館大学生存学研究所オンライン セミナー	
36	桜井政成	青少年の社会貢献意識・政 治参加意識へ影響する要因 の国際比較	2020年11月	日本NPO学会 第22回年次大会	桜井 政成 加野 佑弥
37	サトウタツヤ	ナラティブの心理学:ナラテ ィブを再考する	2020年5月	第46回日本コミュニケーション障害学 会	サトウタツヤ
38	サトウタツヤ	How COVID-19 crises affect Higher education in Japan: An exploratory research by university instructors	2020年5月	THE PSYCHOLOGY OF GLOBAL CRISES: STATE SURVEILLANCE, SOLIDARITY AND EVERYDAY LIFE	Ikumi Ozawa, Michiko Itou, Naoko Yokoyama, Kiyoka Shigetoshi, and <u>Tatsuya Sato</u>
39	サトウタツヤ	TEA 複線径路等至性アプロ ーチにみる看護教員の力量 形成過程～A 教員の自己内 対話に着目した記号の三層	2020年9月	日本看護学教育学会第30回学術集 会	田中千尋・サトウタツヤ・横山直子

		化～			
40	サトウタツヤ	TEAによるキャリア転換経験の分析—分岐ゾーンにおける人と記号の調整過程に焦点をあてて—	2020年9月	日本心理学会第84回大会	宮下太陽・サトウタツヤ
41	サトウタツヤ	国外の先行研究からみる日本型司法取引に関する研究の展望	2020年10月	法と心理学会第21回大会	廣田貴也・中田友貴・若林宏輔・サトウタツヤ
42	サトウタツヤ	キャリアの分岐ゾーンにおけるTLMGとイメージーション	2020年10月	日本キャリア教育学会第42回研究大会	宮下太陽・サトウタツヤ
43	サトウタツヤ	Analysis of Bifurcation Zones in Career Transition	2020年10月	台湾心理学会59回大会	Taiyo Miyashita and Tatsuya Sato
44	サトウタツヤ	コスプレの魅力とは—歴史的検討とフィールドワークの融合を目指して	2020年10月	日本質的心理学会第17回大会	福山未智・サトウタツヤ
45	サトウタツヤ	The Appeal of Cosplay as Seen through Fieldwork and a Historical Examination	2021年1月	The 4th Transnational Meeting on TEA	Misato Fukuyama, Tatsuya Sato
46	鎮目真人	Corporate-centered Conservative Welfare Regime as Japanese Welfare model: A Unified Typology of Welfare and Production Regimes	2020年12月	International Sociological Association RC 19 Annual Meeting	Masato Shizume, Masatoshi Kato, and Ryoza Matsuda
47	長瀬修	Ableism and Ageism during the COVID-19 pandemic	2020年5月23日	Webinar on The Rights Protection of Vulnerable Groups in the Pandemic	
48	長瀬修	「障害者権利条約と日本:課題と政治力学」	2020年9月11日	日本弁護士連合会自由権規約個人通報制度実現委員会研究会	
49	長瀬修	The UNCRPD and Incorporating Intersectionality in Disability Rights Scholarship and Policy Advocacy	2020年10月24日	Workshop on the Equal Participation and Inclusive Society of Persons with Disabilities	
50	長瀬修	「新型コロナウイルス感染症と障害者権利条約」	2021年11月21日	第9回DPI障害者政策討論集会	
51	長瀬修	Advocacy and facilitation of the implementation of the rights of persons with disabilities and CRPD during the COVID-19 pandemic	2020年11月26日	Human Rights-Based Approaches to Development Workshop	
52	長瀬修	国際シンポジウム「障害者権利条約と労働・雇用をめぐる日本、アジア、世界の状況」	2021年1月13日	「障害者権利条約初回審査と労働及び雇用(第27条)—日本障害フォーラムのパラレルレポート」	
53	中村正	ラウンドテーブル—立ち直りから「居直り」へ—ダルクの多元性・地域性を考える—	2020年10月	日本犯罪社会学会第47回大会	高橋康史・市川岳仁
54	中村正	虐待する父親への「男親塾」の取り組みから	2020年11月	日本子ども虐待防止学会第26回学術集会	
55	中村正	フランス児童福祉分野の対人援助—「予防」と「連携」そして「連帯」へ	2020年11月	対人援助学会第12回大会	安發明子・中島弘美・中村正(対人援助学会理事長/立命館大学)
56	村本邦子	コレクティブ・トラウマモデルの理論的検討	2020年9月	日本コミュニティ心理学会第23回大会	川野健治・齋藤絢子・菊池美奈子・坪田祐季・河野暁子・朴希沙・張亦瑾・安田裕子・村本邦子・オイゲン・コウ
57	村本邦子	コレクティブ・トラウマモデルに照らした東日本大震災被災地の文化とレジリエンス	2020年9月	日本コミュニティ心理学会第23回大会	村本邦子・安田裕子・張亦瑾・朴希沙・河野暁子・坪田祐季・菊池美奈子・齋藤絢子・川野健治
58	村本邦子	戦争における加害のトラウマが次世代に何をもたらしてきた	2020年9月	日本トラウマティック・オレス学会第19回大会	

		たのか			
59	村本邦子	「土地の力」とレジリエンスー コロナを生き抜く大阪の「土 地の力」	2020年10月	日本質的心理学会 第17回大会	
60	村本邦子	原子力災害の記憶構築～福 島のミュージアムの展示の あり方を検討する～	2020年11月	対人援助学会第12回大会	
61	安田裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA)―基礎編	2020年9月	日本心理学会第84回大会	安田裕子・サトウタツヤ
62	安田裕子	中高年夫婦に関する家族心 理学研究の課題と展望―リ サーチ系論文を中心として	2020年9月	日本家族心理学会第37回大会	伊藤裕子・安田裕子・宇都宮博
63	安田裕子	コレクティブ・トラウマモデル の理論的検討	2020年9月	日本コミュニティ心理学会第23回大会	川野健治・齋藤絢子・菊池美奈子・坪田祐 季・河野暁子・朴希沙・張亦瑾・安田裕子・ 村本邦子・オイゲン・コウ
64	安田裕子	コレクティブ・トラウマモデル に照らした東日本大震災被 災地の文化とレジリエンス	2020年9月	日本コミュニティ心理学会第23回大会	村本邦子・安田裕子・張亦瑾・朴希沙・河 野暁子・坪田祐季・菊池美奈子・齋藤絢 子・川野健治
65	安田裕子	セレンディビティ消費の概念 化	2020年10月	日本マーケティング学会カンファレン ス2020	小菅竜介・安田裕子
66	安田裕子	父母間での子の奪い合い紛 争をめぐる法と心理	2020年10月	法と心理学会第21回大会	松本克美・小川富之・安田裕子・吉田容 子・金成恩
67	安田裕子	家族の形成過程と将来展望 ―女性の語りから浮かび上 がる妊娠の計画性/偶発性	2020年10月	日本質的心理学会第17回大会	三品拓人・妹尾麻美・安田裕子
68	安田裕子	質的研究法マッピングの世 界を語る	2020年10月	日本質的心理学会第17回大会	サトウタツヤ・安田裕子・田垣正晋・能智正 博・西村ユミ・ハツ塚一郎・春日秀朗・神崎 真実
69	安田裕子	D. A. Poole 著『Interviewing Children』から学ぶこと	2020年10月	法と心理学会第21回大会	田中晶子・羽淵由子・仲真紀子・安田裕 子・田中周子・佐々木真吾・田鍋佳子・赤 嶺亜紀
70	安田裕子	多声的空間の場とその意義 ―国際交流学生スタッフ経 験についての TEM(複線径 路等至性モデリング)図を通 じたマルチビュー・ダイアロ ーグの試み	2020年10月	日本質的心理学会第17回大会	山口洋典・北出慶子・遠山千佳・村山かな え・安田裕子
71	安田裕子	講習会 複線径路等至性モ デリング(TEM)を学ぶ―過 程と発生をとらえるTEAの技 法	2020年10月	日本質的心理学会第17回大会	安田裕子
72	安田裕子	全体会(基調講演、シンポジ ウム)(司会)	2021年1月	The 4th Transnational Meeting on TEA (第4回 TEA 国際集会)	安田裕子・滑田明暢・サトウタツヤ・Jaen Valsiner・土元哲平・宮下太陽・小澤伊久 美・伴野崇生
73	安田裕子	TEA(複線径路等至性アプ ローチ)の技法、トランスビュ ーを体験しよう(講師)	2021年1月	The 4th Transnational Meeting on TEA (第4回 TEA 国際集会)	安田裕子
74	安田裕子	対談 満17歳を迎えたTEA; その径路と未来展望	2021年1月	The 4th Transnational Meeting on TEA (第4回 TEA 国際集会)	サトウタツヤ・安田裕子・上川多恵子
75	安田裕子	コロナ感染拡大に伴う育児 環境の変化が親子に及ぼす 影響―日中比較調査	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	孫怡・矢藤優子・連傑濤・岡本尚子・安田 裕子・サトウタツヤ・鈴木華子・肥後克己・ 破田野智己・土元哲平・神崎真実
76	安田裕子	乳児の社会性発達と養育者 のかかわりの質に関する縦 断的研究―生後1・3・6ヵ月 齢の行動観察から	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	矢藤優子・孫怡・藤戸麻美・岡本尚子・安 田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子・肥後克 己・破田野智己・土元哲平・神崎真実
77	安田裕子	多文化コミュニティでの越境 的な対話を通じた発達の径 路―正課外の市民性教育を 通じた学生スタッフの学び合 いと成長の支援に向けて	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	北出慶子・遠山千佳・村山かなえ・安田裕 子・山口洋典
78	安田裕子	いま、求められているシーム レスな対人支援	2021年3月	日本発達心理学会第32回大会	矢藤優子・肥後克己・安田裕子・サトウタ ツヤ・鈴木華子

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	障害学国際セミナー2020 オンラインセミナー:東アジアにおける新型コロナウイルス感染症と障害者	オンライン	2020年7月	100名	韓国障害学フォーラム、東湖社会発展研究所、台湾障害学会、障害学会、科研費基盤(C)東アジアにおける障害者権利条約の実施と市民社会
2	障害学国際セミナーオンライン特別セミナー「新型コロナウイルス感染症と東アジアの障害者」	オンライン	2021年2月	100名	韓国障害学フォーラム、東湖社会発展研究所、台湾障害学会、障害学会、科研費基盤(C)東アジアにおける障害者権利条約の実施と市民社会
3	オンラインセミナー「新型コロナウイルス感染症と生存学」	オンライン	2020年5月	90名	科研費基盤(C)東アジアにおける障害者権利条約の実施と市民社会(研究代表者長瀬修)
4	土曜講座代替企画 ウィズコロナ/アフターコロナのアクセシビリティ	オンライン	2020年7月	50名	特定非営利活動法人ゆに
5	日本科学史学会生物學史分科会シンポジウム COVID-19 と生物學史	オンライン	2020年12月	60名	日本科学史学会生物學史分科会
6	生存学研究所アクセシビリティ・プロジェクト研究会「駅の無人化がもたらすものー卒業論文「駅の無人化に伴う障害者および高齢者の駅利用に関する問題ーJR 西日本城端線および氷見線の事例ー」より」	オンライン	2021年3月	20名	なし

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	立岩真也	新型コロナ 障害者は問う、「命の選別」起きはしないか…	朝日新聞 DIGITAL	2020年6月24日
2	立岩真也	人工呼吸器は譲るべきか、コロナ禍でも深まらぬ議論	産経新聞	2020年7月21日
3	立岩真也	優生思想について	J-WAVE 「JAM THE WORLD」	2020年8月3日
4	立岩真也	ALS囁託殺人事件から・上	京都新聞	2020年8月20日
5	立岩真也	ALS囁託殺人事件から・下	京都新聞	2020年8月21日
6	大谷いづみ	「生きたい気持ち守れ」(相論対論 再燃する「安楽死」議論)	中外日報	2020年8月21日
7	大谷いづみ	生きて存るを学ぶ「生存学」	同朋	2020年12月
8	小川さやか	働くことの人類学 第4話「その日暮らし」のポテンシャル	ポッドキャスト	2020年10月
9	小川さやか	第11回 地域金融変革運動体リープフロッグ型発展のゆくえー東アフリカ諸国を事例に		2020年4月
10	小川さやか	Beyond za Biz ビジネスを越境せよ#5	Beyond za Biz 対談	2020年6月
11	小川さやか	旬の人・時の人	関西ラジオワイドラジオ	2020年7月
12	小川さやか	人類学的なフィールドワークについて	スマートニュースメディア研究会	2020年7月
13	小川さやか	出演	道場洋三の健康道場ラジオ	2020年7月
14	小川さやか	柴崎友香『百年と一日』刊行記念イベント対談 柴崎友香×小川さやか	柴崎友香『百年と一日』刊行記念イベント	2020年8月
15	小川さやか	The logic of Open Reciprocity in the Tanzanian Union in Hong Kong and China	Class theme World Economy	2020年8月
16	小川さやか	窮地における嘘と笑いータンザニア都市民を事例に	第2回 京都こころ会議研究会	2020年8月
17	小川さやか	リープフロッグ現象をめぐる理解を越えてータンザニア交易人によるコロナ	立命館オンラインセミナー	2020年8月

		後の対応を事例に		
18	小川さやか	経済は一つではない	信頼ダイ	2020年10月
19	小川さやか	フロッグ現象をめぐる理解を越えてー タンザニア交易人によるコロナ後の対 応を事例に	西園寺塾リープ	2020年10月
20	小川さやか	自由に生きるための知性とは何か、偶 然であることの豊かさ(session 2 なぜ 人はあいまいさを嫌うのかーコントロ ールしたい欲望を解放つ)	SERIES リベラルアーツ	2020年10月
21	小川さやか	インフォーマル経済とプラットフォーム 資本主義ー香港・タンザニアの商人を 事例に	ワークショップ「イノベーション・ネットワ ークの源泉を問う」	2020年10月
22	小川さやか	『研究をデザインするー三人の方法』	大学院ウイーク企画トークイベント	2020年11月
23	小川さやか	『働くことの人類学』タウンホールミー ティングセッション1・セッション2		2020年11月
24	小川さやか	偶然を織り込んだシェアリング経済ー 香港のタンザニア人を事例に	特別講師	2020年12月
25	小川さやか	日本人の忘れもの知恵会議 対談シリ ーズ 未来へ受け継ぐ① 小川さやか (文化人類学者)×佐野友亮	朝日新聞	2020年4月
26	小川さやか	日本人の忘れもの知恵会議 オンライン フォーラム ポストコロナを生きぬく 知恵	京都新聞	2020年5月14日
27	小川さやか	日本人の忘れもの知恵会議 対談シリ ーズ 未来へ受け継ぐ② 小川さやか (文化人類学者)×鷲尾麗華(石山寺 責任役員)	京都新聞	2020年6月29日
28	小川さやか	日本人の忘れもの知恵会議 対談シリ ーズ 未来へ受け継ぐ③ 小川さやか (文化人類学者)×西山徳明(北海道 大学教授)	京都新聞	2020年8月25日
29	小川さやか	水曜エッセー 香港のタンザニア人① 折衷料理に商機あり	しんぶん赤旗	2020年8月26日
30	小川さやか	水曜エッセー 香港のタンザニア人② 田舎で父一人の子育て	しんぶん赤旗	2020年9月2日
31	小川さやか	水曜エッセー 香港のタンザニア人③ 暇さえあれば SNS	しんぶん赤旗	2020年9月9日
32	小川さやか	水曜エッセー 香港のタンザニア人④ 翻訳アプリで契約交渉	しんぶん赤旗	2020年9月16日
33	小川さやか	水曜エッセー 香港のタンザニア人⑤ まずは安いコンビニビール	しんぶん赤旗	2020年9月23日
34	小川さやか	空想書店 贈与経済 値段からの解放	読売新聞	2020年9月13日
35	小川さやか	日本人の忘れもの知恵会議 対談シリ ーズ 未来へ受け継ぐ④ 小川さやか (文化人類学者)×上野千鶴子(社会 学者)	京都新聞	2020年10月23日
36	川端美季	生存学研究所オンライン企画「ウィズ コロナ／アフターコロナのアクセシビ リティ」司会	オンライン(Zoom)	2020年7月5日
37	川端美季	日本科学史学会生物学史分科会シン ポジウム「COVID-19 と生物学史」司 会	オンライン(Zoom)	2020年12月19日
38	川端美季	オンラインワークショップ「ロックイン を常態として生きる withコロナ社会研 究プログラムの成果から」第一部司会	オンライン(Zoom)	2021年3月28日
39	サトウタツヤ	「日赤発」この情報本当？ 新型コロナ 「医療ひっ迫」LINE拡散 識者「典 型的デマの手法」	東京新聞	2020年4月
40	サトウタツヤ	感染デマにチラシで対抗、愛知 死亡 のうわさに店主憤慨	共同通信	2020年5月

41	サトウタツヤ	コロナ情報の信ぴょう性、7割近くがチェック 立命館大がオンラインで調査	毎日新聞	2020年5月
42	サトウタツヤ	Frontline health workers in Japan face discrimination over virus	KYODO NEWS	2020年5月
43	サトウタツヤ	コロナから学ぶ非常時の消費者心理 ～トイレットペーパーはなぜ品薄に～	消費者トラブル防止セミナー	2020年11月
44	サトウタツヤ	東日本大震災から、立命館はどのようなコミュニケーションを生み出し続けてきたのかーコロナ禍の今だからこそ、振り返るべきことー	3.11 追悼「いのちのつどい」追悼・シンポジウム	2021年3月
45	千葉雅也	[討議]今夜もオーバーナイト! vol.02	オンライン	2020年5月
46	千葉雅也	[討議]『ことばと』創刊記念オンラインイベント	オンライン	2020年5月
47	千葉雅也	[審査員]トーキョーフロントラインフォトアワード2020	SKWATにて開催	2020年7月
48	千葉雅也	[討議]動きすぎではいけない～UENOYESを哲学する	オンライン	2020年11月
49	千葉雅也	[討議]研究をデザインするー三人の方法	オンライン(先端総合学術研究科)	2020年11月
50	千葉雅也	[審査員]第3回笹井宏之賞	オンライン	2020年11月
51	千葉雅也	[ラジオ出演]Hip-Hop～自分らしく居られる場所～	文化放送	2020年11月
52	千葉雅也	[テレビ出演]「ぼっちユージュンパー」パーカーさん 人気の理由は・・・	おはよう関西(NHK)	2020年12月
53	千葉雅也	[討議]帰ってきた「欲望会議」! 2020年、〈人類の移行期〉の欲望論	オンライン	2020年12月
54	千葉雅也	[対談]ポストトゥルースと批評の現在ーリー・マッキンタイア『ポストトゥルース』をきっかけに	浄土複合	2020年12月
55	千葉雅也	[討議]コロナと大学ー流行から一年経って見えるもの	オンライン(先端総合学術研究科)	2021年1月
56	千葉雅也	東京藝術大学美術学部先端芸術表現科 2020年度卒業制作講評	オンライン	2021年1月
57	中村正	座談会:多声的で小さな物語を聴くことの意味ー災禍を生き抜くレジリエンスとコミュニティ	対人援助学研究	2020年4月
58	美馬達哉	大学生の新型コロナ集団感染「道徳的非難の対象にすべきでない」立ち寄り先公表「違和感ある」と研究者	京都新聞	2020年4月～2020年4月
59	美馬達哉	論点:新型コロナ「恐れ」とどう付き合うか 『弱者』への配慮忘れずに	毎日新聞	2020年4月～2020年4月
60	美馬達哉	新型コロナ緊急事態宣言の課題は識者「同調圧力強まる懸念」「知事要請の監視を」「行動制限「守れない人」支援を	京都新聞	2020年4月～2020年4月
61	美馬達哉	視標「緊急事態39県解除」大流行に備え医療体制を1年では「通常」戻れず 立命館大教授 美馬達哉	共同通信	2020年5月～2020年5月
62	望月茂徳	クリエイティブ・テクノロジーで切り拓く ONLINE コミュニケーション	SYMUNITY xR HYBRID EVENT 2020	2020年8月
63	望月茂徳	多様性をクリエイティブ・テクノロジーでオモシロく～さまざまな人々と共に生み出す創造とイノベーション～	JVC KENWOOD SDGs フォーラム 2020	2020年10月
64	望月茂徳	Thikwa+Junkan お久しぶりトーク	MISCH MASCH FESTIVAL	2021年2月
65	安田裕子	TEM/TEA zoom 講習会 過程と発生をとらえる TEAー多様性・複雑性を可視化する TEMを中心に	立命館大学(オンライン研究会)、科学研究費補助金基盤研究(C)日本語支援者の学び解明と促進を旨とした多文化サービスラーニングの開発(代表:立命館大学 北出慶子)	2020年6月～2020年6月
66	安田裕子	複線径路等至性アプローチ オンライン研究会 研究発表/話題提供 司会	立命館大学(オンライン研究会)	2020年7月～2020年7月

68	安田裕子	高齢者の理解と心理的支援	令和2年度 大阪市介護相談研修(後期・基礎講座), 大阪市立社会福祉センター	2020年9月～2020年9月
69	安田裕子	TEA研究会 & TEA分析学会(仮称) キックオフミーティング シンポジウム モデレーター	立命館大学(オンライン研究会)	2020年9月～2020年9月
70	安田裕子	シンポジウム「つながること・支えること」の人間科学—危機に学び、未来へ結ぶ	京都市・立命館大学朱雀キャンパス1階多目的室、立命館大学人間科学研究所創立20周年記念総会/立命館土曜講座 公開講演会「人間科学の未来—多様性を架橋する」	2021年2月～2021年2月
71	安田裕子	TEAによる未来拡張型購買の概念化	立命館大学(オンライン研究会)、第7回 立命館大学ものづくり質的研究センター研究会	2021年2月～2021年2月
72	安田裕子	TEA研究会(コメンテーター)	立命館大学(オンライン研究会)	2021年3月～2021年3月

6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	小川さやか	日本文学振興会	第51回大宅壮一ノンフィクション賞		2020年6月
2	小川さやか	一般財団法人 河合隼雄財団	第8回河合隼雄学芸賞		2020年6月
3	後藤基行	社会政策学会	2019年第26回社会政策学会学会賞(奨励賞)		2020年5月

7. 科学研究費助成事業

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1.	立岩 真也	「障害の社会モデル」を重視したリハビリテーションのための内省型研修プログラム開発	基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	分担
2.	立岩 真也	障害基礎年金制度の成立背景の明確化及び現行の障害者所得保障の問題改善について	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	分担
3.	立岩 真也	重度な障がいのある人がどこでも安心して暮らせるための看護支援プログラムの開発	基盤研究(C)	2017年4月	2021年3月	分担
4.	大谷 いづみ	生命倫理学前史・成立史における安楽死論とキリスト教の相剋に関する米英日比較研究	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	代表
5.	小川さやか	アジア・アフリカ諸国間の模造品取引に関する文化人類学的研究—携帯電話を事例に	若手研究(A)	2016年4月	2020年3月	代表
6.	小川さやか	アフリカ遊動社会における接合型レジリアンス探求による人道支援・開発ギャップの克服	基盤研究(A)	2018年4月	2023年3月	分担
7.	小川さやか	インフォーマル化するアジア:グローバル化時代のメガ都市のダイナミクスとジレンマ	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	分担
8.	小川さやか	アフリカ諸国における暗号通貨を利用した国際取引に関する人類学的研究	基盤研究(C)	2020年4月	2025年3月	代表
9.	川端美季	帝国日本の植民地における衛生規範の確立—公衆浴場の普及に注目して	若手研究	2018年4月	2021年3月	代表
10.	川端美季	生命倫理学・死生学における安楽死尊厳死論の変容とキリスト教の歴史的社会的影響	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	分担
11.	岸 政彦	沖縄戦の生活史と戦後沖縄社会の構造変容	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
12.	後藤 基行	家族同意に基づく非自発的な精神科入院の歴史的研究—精神衛生法下における同意入院—	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
13.	後藤 基行	医療アーカイブズの構築と利用環境の整備に関する先導的研究—九州大学診療録を材料に	挑戦的研究(開拓)	2020年7月	2023年3月	分担
14.	後藤 基行	20世紀日本の長期療養型疾患の歴史—ハンセン病・精神疾患・結核の比較統合的検討	基盤研究(A)	2017年4月	2021年3月	分担

15.	後藤 基行	日本の学術体制史研究 ―研究基盤となる日本学術会議資料整備と研究環境構築の検討―	挑戦的研究(開拓)	2017年6月	2021年3月	分担
16.	桜井 政成	地域の「受援力」概念構築と応用可能性に関する総合的研究	挑戦的研究(萌芽)	2018年6月	2021年3月	代表
17.	サトウタツヤ	「わかる」と「できる」が拡大し、キャリアが展望できる「チーム探究」に関する研究	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	代表
18.	鎮目真人	「市民」に必要な能力は何か:シテズンシップ教育のプログラム開発に関する基礎研究	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	分担
19.	鎮目真人	公的年金制度の制度改革と脱貧困化に向けた政策立案	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
20.	千葉 雅也	自閉症に関する哲学と医学の学際的研究:ドゥルーズ哲学と自閉症研究の融合	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	分担
21.	富永京子	メディア文化史における「1970年代」の戦後史位置の再考	基盤研究(B)	2017年4月	2022年3月	分担
22.	富永京子	地域の「受援力」概念構築と応用可能性に関する総合的研究	挑戦的研究(萌芽)	2018年6月	2021年3月	分担
23.	富永京子	社会運動における排除・周縁化のメカニズム―活動従事者の日常に注目して	若手研究	2019年4月	2022年3月	代表
24.	富永京子	東北アジアにおける戦後日本思想―加藤周一、丸山眞男、竹内好、鶴見俊輔を軸として	基盤研究(B)	2020年4月	2023年3月	分担
25.	富永京子	「社会意識の分断」に着目した政治行動の計量的解明と新たな政治社会学モデルの構築	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	分担
26.	長瀬修	東アジアにおける障害者権利条約の実施と市民社会	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	代表
27.	西成彦	「ホロコースト文学」における語圏間の隣接性に関する比較文学的研究	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
28.	松原 洋子	ゲノム編集をめぐる倫理規範の構築を目指して ―科学技術イノベーションと人間の尊厳	基盤研究(B)	2019年4月	2022年3月	分担
29.	美馬達哉	マイノリティーカイクの構築・研究・発信:領域横断的ネットワークの基盤創成	挑戦的研究(萌芽)	2019年6月	2021年3月	代表
30.	美馬達哉	記憶・想起の脳機能ネットワークの解明と認知症早期治療システムの構築	基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	分担
31.	美馬達哉	静磁場暴露による低周波脳律動の誘導と関連領域との相互結合性の変化	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	分担
32.	美馬達哉	新規非侵襲的脳刺激が拓くネオ・リハビリテーションとそのシステム脳科学的解明	基盤研究(A)	2019年4月	2023年3月	代表
33.	美馬達哉	グリアの視点からの片頭痛の新展開:slow EEG と機能的 MRI の統合的解析	挑戦的研究(萌芽)	2020年7月	2023年3月	分担
34.	美馬達哉	生活期音楽併用リハビリテーションを基盤とする地域包括支援プログラムの構築	基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	分担
35.	美馬達哉	非線形発振現象を基盤としたヒューマンネイチャーの理解成果取りまとめ	新学術領域研究(研究領域提案型)	2020年4月	2021年3月	分担
36.	安田 裕子	法と心理の連携による離婚紛争の合意解決支援―修復的司法の家族法への展開	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
37.	安田 裕子	女性の産後育児支援の多様性及び母子のwell-being への影響の日中韓比較研究	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2020年10月	2025年3月	分担
38.	安田 裕子	10代母親の逆境的小児期体験(ACE)を踏まえた妊娠期からの訪問プログラム開発	基盤研究(B)	2019年4月	2024年3月	分担
39.	安田 裕子	脱刑事罰処理を支える「治療法学」の確立に向けた学際的総合的研究 研究課題	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	分担
40.	安田 裕子	日本語支援者の学び解明と促進を目指した多文化サービスラーニングの開発	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	分担
41.	安田 裕子	司法面接における開示への動機づけを高める要因の研究	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	分担
42.	福岡良明	メディア文化史における「1970年代」の戦後史位置の再考	基盤研究(B)	2017年4月	2022年3月	分担

